



震災を経て…

今

残さなければ。

後世に伝えたいもの

熊本地震から、あとひと月余りで1年。月日の経過とともに、町の風景や被災された方々の生活はめまぐるしく変化してきました。震災の爪痕が今も残る中、損壊した家屋は復旧復興に向け解体が進み、その形は人々の記憶へと変わっていきます。そして、いつも通っていた道やそこから見えた景色、毎日当たり前のように目に映っていたその風景の記憶さえも、日ごろの慌ただしい生活によって次第にかき消されてしまいます。

その時何が起こっていたのか。また、復興を遂げるまで町はどう変化していったのか。記憶とともに、その時々記録が未来にとって貴重な資料となり財産となります。今回の経験や貴重な財産を風化させないためにも、震災の記憶、記録はもちろん、幾世代にもわたり引き継がれ築かれてきた人々の暮らしや歴史的文化財などを後世に伝え残さなければなりません。

①北向猿田彦 ②飯田山
常楽寺境内の層塔 ③高
遊の御拝所 ④龍池山千
光寺の本尊 ⑤寺迫にあ
る「ヤンボシさん」

